

時代の変化とロシア語語彙の変化、経済発展に伴うロシア語語彙の変化

研究の概要

私は、大学院からロシア及び旧ソ連会計制度、会計理論について研究してきました。

ソ連が崩壊し、ロシアとなり、市場経済化が進むにつれ、資本主義的な考え方が必要になり、特に会計学は世界共通のビジネスの言語であるとして大きな意味を持つようになりました。

しかし、社会主義時代は「利益」は人民に対する搾取であるとして、それを研究する会計学もあまり、軽視されてきました。しかし、1987年からのペレストロイカ、1991年のソ連邦崩壊後、外資の導入、公益のため、会計学が必要になりました。一方、今まで損益計算書や利益計算の概念、資本の概念もなかったものですから、会計語彙自体を新しく生み出さねばなりませんでした。

そしてそれは会計学の分野だけではとどまりませんでした。アメリカ文化や欧米からの文化がロシア・旧ソ連に入ってきて、新しい概念、語彙がロシア語の中にどんどん入ってきました。

また、残念なことに COVID-19 の感染拡大のなかでロシア語語彙も変容してまいりました。

今は昔のロシア語辞典では対応できないものが拡大しています。ロシア語新語語彙についての研究の概要は以上です。

研究の特徴

ロシアをはじめとする旧ソ連地域への投資拡大、ロシア語語彙への対応は難しく、あまり例がありません。

私は『日ロ(英)会計用語集』も20年以上前に出版し、いまだにそれを利用してくださっている関係者もおられます。

今、コロナ禍で実際にロシアを訪問することも難しく、正しい相互理解のために研究を継続しております。

行政・経済界・地域と連携した取り組み例

日本国外務省、国際機関の支援委員会、北陸経済連合会、国税庁、中小企業庁などと連携し、特に会計の技術移転に関して連携し業務をしてまいりました。

研究者からのメッセージ

会計学の分野ではこのような研究はほぼ日本で数少ない専門家のうちの一人であると自負しております。

『解説付き日ロ(英)会計用語集』も版を重ねました。

研究分野 : ロシア語、会計学、ロシア経済

研究者の所属部局・職位・氏名 : 和歌山大学経済学部 経済学科・教授・齊藤久美子

本件に関するお問い合わせ : liaison@ml.wakayama-u.ac.jp